



産 建 第 7 4 号
平 成 19 年 4 月 27 日

国土交通省道路局長

歌志内市長 泉谷和



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け、国道企第114号にて提出依頼がありました標記の件について、別紙のとおり回答いたしますので、よろしくお願いいたします。

国土交通省 道路局長 様

道路整備の中期的な計画に関する意見の提出について

歌志内市長 泉谷和美

今後の道路政策や道路の整備・管理について

○ 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

(防災・減災対策への緊急輸送路などの重点的な整備)

近年の異常気象が多発傾向にある。これらの災害で通行不能となった場合の、迅速な情報ネットワークと地域が孤立することのない代替路線の確保が必要と考えます。

(渋滞と環境(CO₂対策)について、道路管理者としての対策)

2005年京都議定書発効以来地球温暖化対策への国民感心が高まっている。特に北海道に於いては、冬期間の速度低下などを踏まえた交通の円滑化に向けた取り組みが必要と考えます。

(高速ネットワークの効率的活用・機能強化として、ETC専用のICの設置)

効率的な道路利用の一つとして、低料金による高速道路利用を可能とし、多種産業の振興に資すよう、ICの設置の増設を調査研究する必要があるものと考えます。

○ 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

社会資本の公共事業が年々減少している厳しい財政状況の中で、広大な北海道の道路行政を効率よく行っていく為には、プライオリティを明らかにする必要がある。今後はコストの縮減とよりスピーディーな施策展開が必要と考えます。

○ その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関するご意見

北海道は豊かな自然環境、食料基地等の優位性を活かした産業展開が期待されるものと考えます。

これらの産業の推進は、物流面でのネットワークが確立されていてこそ効果が現れます。北海道は地域拠点が分散されていて、地勢的にハンディキャップを抱えております。また、冬期間についても吹雪や路面状況の影響から、予測できない時間が社会経済に大きく影響を及ぼしております。

まだまだ、地方は都市との格差が大きく、基幹産業を支える社会資本整備が整っておりませんが、道路は地域にとって必要不可欠であり、地域の施設と柔軟に連携していかなければなりません。

当市の場合、市内縦貫の道道赤平奈井江線については、交通量の増加や札幌圏から道東へのバイパス的役割を担っていることから、大型車の混入が非常に多い状況にあります。地域の安全対策上から、もはや地方道の対応ではなく、物流移動経路としての産業道路として、視点を変えて北海道経済の発展に繋げていかなければならないものと考えます。